

# 景気観測(LOBO)

«2024.10~12月»

令和6年度 第3四半期

日立商工会議所  
情報化委員会

## I. 調査概要について

### (1) 調査期間並びに調査基準

調査期間	四半期毎に実施、時期としては7, 10, 1, 4月
調査基準	四半期毎の景況感を対前年同期と比較

### (2) 調査対象並びに回収状況

業種	調査対象件数	回収件数	回収割合(%)
製造業	25	22	88%
小売業	25	22	88%
建設業	25	20	80%
サービス業	25	20	80%
計	100	84	84%

### (3) 調査内容並びに調査方法

調査項目	業界全体の動向と関心事項、売上高の推移と変化要因 採算・仕入/販売単価・従業員数・資金繰りの変化状況
調査方法	FAX・インターネット活用

### (4) 調査結果の採用

商工会議所として、景況の判断資料とすると共に一般会員にも「かいぎしよNEWS」での掲載を中心に景気動向として発表。協力事業所に対しても結果送付。

◎LOBOとは「CCI(Chamber of Commerce and Industry)-Quick Survey System of Local Business Outlook」(商工会議所早期景気観測)からとった略称。

◎DI値(景気判断指数)について

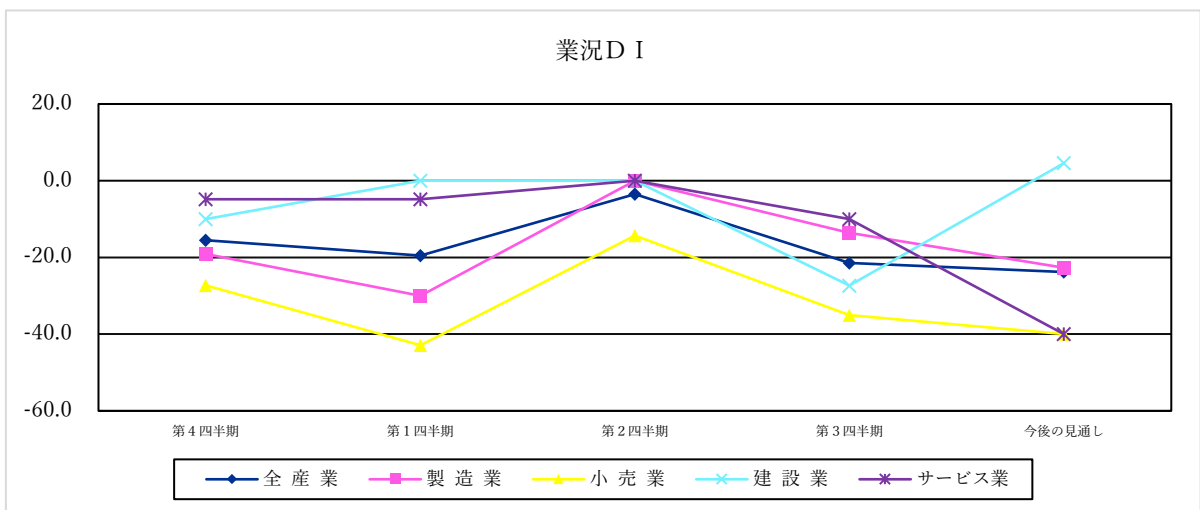
- ・DI値は調査項目についての景況判断状況を表す。(▲で下向き)
- ・強気、弱気等景況感の相対的な広がりの意味する。
- ・DI=(増加・好転・不足等の回答割合)-(減少・悪化・過剰等の回答割合)

## II. 業況判断について

- 全産業の業況は、▲21.4と前回調査時(▲9.4)より12.0ポイント悪化。今後の見通しは、▲23.8と今回比2.4ポイントの悪化が見込まれる。
- 製造業では、▲13.6と前回調査時(▲4.8)から8.8ポイント悪化。今後の見通しは、▲22.7と今回比9.1ポイントの悪化が見込まれる。
- 小売業では、▲35.0と前回調査時(▲28.6)より6.4ポイントの悪化。今後の見通しは、▲40.0と今回比5.0ポイントの悪化が見込まれる。
- 建設業では、▲27.3と前回調査時(0.0)より27.3ポイントの悪化。今後の見通しは、4.6と今回比31.9ポイントの回復を見込む。
- サービス業では、▲10.0と前回調査時(▲4.4)から5.6ポイントの悪化。今後の見通しは、▲40.0と今回比30.0ポイントの悪化が見込まれる。

(1)業況DIの推移とキーワード

	令和5年度	令和6年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	今後の見通し (1~3月)
全産業	▲ 15.5	▲ 19.5	▲ 3.5	▲ 21.4	▲ 23.8
製造業	▲ 19.1	▲ 30.0	0.0	▲ 13.6	▲ 22.7
小売業	▲ 27.3	▲ 42.9	▲ 14.3	▲ 35.0	▲ 40.0
建設業	▲ 10.0	0.0	0.0	▲ 27.3	4.6
サービス業	▲ 4.8	▲ 4.8	0.0	▲ 10.0	▲ 40.0



	キーワード		
	第1位	第2位	第3位
製造業	業界の先行き不透明	自社製品・新規受注	受注量の減少
小売業	採算悪化	原材料高騰	買い控え
建設業	人材・技術者不足	採算悪化	民間工事受注増加
サービス業	仕入価格の上昇	人材不足	採算悪化

《全国との比較》

	令和6年度第3四半期		今後の見通し(1月~3月)	
	全国(12月)	日立	全国	日立
全産業	▲ 14.4	▲ 21.4	▲ 17.1	▲ 23.8
製造業	▲ 21.4	▲ 13.6	▲ 19.2	▲ 22.7
小売業	▲ 20.2	▲ 35.0	▲ 20.7	▲ 40.0
建設業	▲ 21.4	▲ 27.3	▲ 19.2	4.6
サービス業	▲ 3.4	▲ 10.0	▲ 12.6	▲ 40.0

## (2)売上高・採算・仕入単価・販売単価・従業員数・資金繰りの推移(DI値)

## (売上高)

	令和5年度	令和6年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	今後の見通し (1~3月)
全産業	▲ 6.0	▲ 11.0	4.6	▲ 2.4	▲ 1.2
製造業	▲ 14.3	0.0	4.6	9.1	▲ 4.5
小売業	0.0	▲ 23.8	▲ 14.3	▲ 5.0	0.0
建設業	▲ 5.0	▲ 5.0	4.8	▲ 13.6	13.6
サービス業	▲ 4.8	▲ 14.3	21.7	0.0	▲ 15.0

## (採算)

	令和5年度	令和6年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	今後の見通し (1~3月)
全産業	▲ 14.3	▲ 20.7	▲ 9.2	▲ 23.8	▲ 16.7
製造業	▲ 33.3	▲ 20.0	4.6	▲ 9.1	▲ 9.1
小売業	▲ 27.3	▲ 38.1	▲ 23.8	▲ 45.0	▲ 35.0
建設業	10.0	▲ 5.0	▲ 4.8	▲ 22.7	0.0
サービス業	▲ 4.8	▲ 19.0	▲ 13.0	▲ 20.0	▲ 25.0

## (仕入単価)

	令和5年度	令和6年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	今後の見通し (1~3月)
全産業	▲ 71.4	▲ 76.8	▲ 69.0	▲ 73.8	▲ 57.1
製造業	▲ 57.1	▲ 75.0	▲ 59.1	▲ 59.1	▲ 22.7
小売業	▲ 81.8	▲ 81.0	▲ 81.0	▲ 80.0	▲ 75.0
建設業	▲ 75.0	▲ 80.0	▲ 66.7	▲ 77.3	▲ 63.6
サービス業	▲ 71.4	▲ 71.4	▲ 69.6	▲ 80.0	▲ 70.0

## (販売単価)

	令和5年度	令和6年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	今後の見通し (1~3月)
全産業	36.9	40.2	42.5	32.1	25.0
製造業	23.8	55.0	36.4	27.3	4.6
小売業	68.2	42.9	66.7	35.0	25.0
建設業	35.0	25.0	38.1	36.4	13.6
サービス業	19.0	38.1	30.4	30.0	20.0

## (従業員数)

	令和5年度	令和6年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	今後の見通し (1~3月)
全産業	20.2	19.5	26.4	23.8	25.0
製造業	9.5	5.0	22.7	13.6	18.2
小売業	22.7	19.0	14.3	15.0	10.0
建設業	15.0	35.0	33.3	45.5	50.0
サービス業	33.3	19.0	34.8	20.0	20.0

## (資金繰り)

	令和5年度	令和6年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	今後の見通し (1~3月)
全産業	▲ 11.9	▲ 13.4	▲ 8.1	▲ 13.1	▲ 22.6
製造業	0.0	▲ 20.0	▲ 4.6	▲ 4.6	▲ 4.5
小売業	▲ 18.2	▲ 23.8	▲ 19.0	▲ 20.0	▲ 35.0
建設業	▲ 10.0	▲ 5.0	▲ 4.8	▲ 9.1	▲ 22.7
サービス業	▲ 19.0	▲ 4.8	▲ 4.4	▲ 20.0	▲ 30.0

## (3)業種別概況

業種	概況
製造業	<p>売上は好転を維持しているが、業況、採算は悪化している。新規案件や自社製品により売上増加の報告がある一方、受注量の減少の報告も見られる。</p> <p>個別では</p> <p>「人手不足の傾向にありますが、派遣等でつなぎ、何とか体制を整えている。海外に拠点を持たない中小企業は、円安がこれ以上になれば、かなり厳しくなりそう。主要取引先の経営形態が変わった事から、受注の先行きがやや不透明で不安を感じている。」(組合)</p> <p>「今後の値上げの動向。業界では2025年度再値上げの予定。」(生コン製造業)</p> <p>「今後の昇降機事業では、セキュリティの強化や待機時間の短縮などをIoT技術の活用で、自動化したスマートエレベータが成長すると予想される。中国不動産不況の影響が大きい。」(電気機械器具製造業)</p> <p>「自動車メーカーの動き、油類や補材費の上昇の影響が出ている。」(輸送用機械器具製造業)</p> <p>「鉄道関連受注が軟調見込み。」(輸送用機械器具製造業)</p> <p>「半導体業界の早期回復。自動車業界の見通し不透明。」(輸送用機械器具製造業)</p> <p>「技術者増加に伴い売上げ増加している。」(情報サービス業)</p> <p>「現在使用している機械メーカーが数年前に倒産。故障の際の部品供給が出来なくなり、新規の機械購入を余儀なくされた。」(印刷業)</p> <p>などの報告があった。</p>

小売業	<p>売上が回復するも、業況感、採算は悪化傾向にあり、これまで以上の価格転嫁が難しくなっていると思われる。仕入れや経費の上昇が徐々に経営を圧迫しているとの報告もある。</p> <p>個別では</p> <p>「仕入れ全体が高騰するなか、特に小売において物価上昇に消費者の感覚が追いつかず、販売価格への転嫁が難しい。」(食肉小売業)</p> <p>「燃料に対する激変緩和対策の終息。それに伴う消費動向の低迷。」(燃料小売業)</p> <p>「人手不足の深刻化。」(食品スーパー)</p> <p>「価格上昇により買い控え。」(事務機器小売業)</p> <p>「生徒数減少により学生服等の売上減少。」(洋品小売業)</p> <p>「市内中学校の統合により、発注増加が見込まれる。」(スポーツ用品小売業)</p> <p>「仕入れ値、部材、ガソリン値等の上昇により圧迫されている。」(家電品小売業)</p> <p>「自動車関係の変化が速すぎて、左右される事が多い。」(自動車用品販売業)</p> <p>などの報告があった。</p>
建設業	<p>業況感、売上、採算共に悪化傾向にあるが、年度末に向けて受注量の増加が見込まれる。慢性的な人材・技術者不足が見られる一方、民間工事受注の増加が見られる報告が多数あった。</p> <p>個別では、</p> <p>「建設資材、労務費高騰続く。販価(受注金額)やや好転。建設技術者不足により受注機会損失。年度末にかけて、国土交通省工事発注増加に期待。」(総合建設業)</p> <p>「発注量減少でも資材値上げ、専門業者(作業員)減少により経営が悪化する見通し。法律改正により益々の発注量の減少、技能者確保が課題。」(建築業)</p> <p>「他社との差別化により売上増加。」(建築業)</p> <p>「4月に建築基準法が改正される。今後どのように影響するか不安。」(建築業)</p> <p>「資材、燃料等の高騰により、受注単価上昇。民間工事の減少が見られる。」(土木工事業)</p> <p>「大型受注案件の完工、年度末工期の受注により売上増加。大企業を中心に大幅な賃金アップのニュースを目にするが、中小企業が同様の対応ができるはずもなく、今後は増々新規採用が厳しくなるのではないか。民間の大型案件の引き合いも増え、景気は悪くないように感じるが、同業他社の経営難の話聞く機会も多く、実際の景気は良くないと思われる。」(設備工事業)</p> <p>「物価上昇が続く一方で、大企業の賃金引上げはスムーズに行われて、それが大々的に報道される中、中小企業では従業員の雇用安定のためにも賃上げを行いたいが、利益の上昇が厳しいためわずかずつつしか出来ないのが不甲斐ない。」(設備工事業)</p> <p>「公共工事の減少が見られる反面、一般住宅関係のリフォームの増加が見られる。」(塗装工事業)</p> <p>「発注、受注、技術者、売上回収のバランス取りが難しい。特に売上回収でのスピードダウンが目立つ。」(土木工事業)</p> <p>などの報告があった。</p>
サービス業	<p>業況感、売上、採算ともに悪化しており、今後の見通しを不安視する声が多い。原材料や経費の上昇分を、販売価格に転嫁できる業界とできない業界が見られる。</p>

	<p>個別では、</p> <p>「運転士不足、労働環境変化による稼働確保に向けた採用活動の展開、待遇の改善。為替の円安続伸・物価の上昇等による経費増加への対応。【利便性の高い公共交通利用環境】の実現に向けて、DX化を推進。【グリーントランスフォーメーション】EVバスの導入促進。【自動運転実証実験】を関係機関と推進し、新たな移動手段を創出する。路線バス・貸切バスの運賃改定。新たな移動マインドに対応し、利便性向上を図り売上増加を見込む。」(一般乗用旅客自動車運送業)</p> <p>「働き方改革に合わせて運賃、工賃単価を見直し、4月から増加を見込む。」(物流業)</p> <p>「働き方改革により、時間外が制限され、特に長距離トラックは1泊2日が2泊3日になり、ドライバー不足が顕著となる。運賃値上げも必要となっている。」(物流業)</p> <p>「コロナ感の消失により売上増加。トランプ政権になって世界経済の行先不透明。ガソリン、キャベツ、米の価格高騰。」(飲食業)</p> <p>「来店サイクルの長期化。高齢化による失客。」(理容業)</p> <p>「コロナ後の宴会需要が戻らない。」(ホテル業)</p> <p>「日立をはじめ県北地域の宿泊観光業は、食材や人件費の高騰及び、販売価格への転嫁や事業承継と問題が山積み。集客も全国的なオーバーツーリズムとは程遠い環境にある。対策として、コロナ禍で有効だった「いば旅あんしん割」等の支援策を検討して欲しい。」(ホテル業)</p> <p>「業種的に繁忙期のため売上増加に繋がった。」(映像制作業)</p> <p>などの報告があった。</p>
--	---